

【タイトル】 いとおしい日々

【概要】

本企画は、互いの違いを温かく受け入れ認め合うことで、人との繋がりにおいて生きやすさや幸せに気づくきっかけになる内容です。

植物の枝、花に全く同じものが存在しない様に、自分とは異なる価値観に戸惑い不安や孤独を感じている人は多く存在します。

人を花に例え、そのものが持つチカラを言葉と写真で、まるで日常と一緒に体感しながら、新しい視点に気づいていただける本にしたいと思っております。

【想定する読者ターゲット】

- ① 20～50代の女性
- ② 今日の出来事を振り返り反省をしてしまう人
- ③ 人に優しい人間でありたいと願っている人
- ④ 疎外感を感じている人

【構成案】

第1章 近寄り難い人

- ・ダリアの花言葉は【威厳】
- ・何故か苦手意識を持ってしまう人
- ・最初から威厳のある人は存在しない

第2章 本当の強さを持つ人

- ・蓮の花の花言葉は【神聖】
- ・イメージとのギャップ
- ・本当の強さをもつ人

第3章 意外性が魅力になる人

- ・コスモスの花言葉は【謙虚】
- ・
- ・

第4章 共に

- ・秋色紫陽花の花言葉は【辛抱強い愛情】
- ・
- ・

## 【サンプル原稿】

### 第1章 近寄り難い人

職場やコミュニティにおいて、悪い人ではないのに思わず『近寄り難い』と感じてしまう人はいませんか？

ここに当てはまる人に、私には『威厳』の2文字を持つ人が当てはまります。

何故かという、自分の中にある自信のなさが、そう感じさせるのですが、思わずそう感じる方の前では小さく縮こまってしまう自分がいます。

花の形状には、一重や八重などがありますが、一重の花に比べて圧倒的な【威厳】を花言葉に持つ【ダリア】は幾重にも重なる花卉の美しさに圧倒されるから。

【自信】とは経験が織りなす花卉の様なもの。思わず近寄り難いと感じてしまう人にも最初はトライ&エラーを繰り返した過去があり、小さな小さな経験がいつしか【自信】となり、ダリアの様な人になるのだと思います。

今日あった経験は、5年後、10年後の花卉になっているかもしれません。

### 第2章 あなたが思う本当の強さを持つ人

蓮の花は泥の中からすっと浮かび上がり、午前中の極限られた時間の中で花を咲かせ、それを数日繰り返した後、最後は花びらが落ちるまで咲ききって散ります。

花言葉の通り、例え泥の中でも成長したとしてもそれを感じさせない、清らかな姿に、汚れを知らない「神聖な花」として沢山の逸話があります。

歴史上の偉人達は、世の中に残していった輝かしい功績の裏で、必ずと言っていい程泥まみれのような経験を積んでいます。

そんな事もものともしない。泥さえも光を集めるレフ板の様に自分を輝かせてしまうそんな強さがこの蓮の花には存在します。

蓮の花の花言葉は【神聖】や【清らか】といった言葉を纏う女神の様なイメージではなく、逆境こそ笑いにしてしまう、ポンと弾けるような笑顔の人が本当の強さをもつ人だと思っています。

### 第3章 意外性が魅力になる人

子供の頃、あまり手付かずの空き地に群生していた印象のコスモス。

特徴的な葉と共に風に揺られて鬱蒼とする様は、そこから先には足を踏み入れてはいけない。と言われている様な気がしたものでした。

コスモスの花言葉は【謙虚】

それがどこから由来しているのか分からない程、私はしっかりした自己主張のある花だと思っています。

あるとしたら、それは「秋桜」と書き、春の別れを連想する“桜”と、賑やかだった夏から一転、季節が変わる物寂しさをこの花にのせた歌が多いからでしょうか。

文学と同じく、読み手側によって捉え方は様々ですが、鬱蒼と繁るコスモスは賑やか

でおしゃべり。「楽しくて何が悪いの？」以外にもそんな言葉が似合ってしまう様な人をこの花に重ねます。

【意外性】私はその人の持つ新たな魅力の一つだとも思っています。

#### 第4章

秋色紫陽花・・・初めて見たこの花のニュアンスカラーには軽く衝撃を受けました。

夏の鮮やかな紫陽花に比べて“秋”という季節にふさわしいシックな色合い

秋色紫陽花の花言葉は【辛抱強い愛情】

「秋色」という名のついた品種なのではなく、ごく身近に存在した“あの”紫陽花が“刻”の長さを従えて移りゆく色のグラデーションとなるのです。

一足飛びには行かない。いかないからこそ表現される世界。

そこには花言葉にある「辛抱強い」という言葉によって、年月を重ねた故の奥行きのある“情愛”を感じさせます。

グラデーションの美しさを“永遠”を意味するリースにのせて長く連れ添われたご夫婦に贈りたい花が秋色紫陽花です。

[以上となります。よろしくお願いたします]